

「記録映画アーカイブ・プロジェクト 第8回ミニワークショップ」のお知らせ  
「物語としてのPR映画—企業がつくり上げる『わたし』と『あなた』」

日時：2017年4月28日（金）18:00-20:30（開場は17:30）

会場：東京大学本郷キャンパス ダイワハウス石橋信夫記念ホール

[http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01\\_14\\_04\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_14_04_j.html)

\* これまでと違う会場です。「ダイワユビキタス学術研究館」内（春日門を入れて左側）

定員：125名（当日先着順。定員になり次第、締め切り）

上映：『みち子の夢』（1955年、東京電力、岩波映画製作所、18分、カラー）

『おやじの日曜日』（1959年、石川島播磨重工業、桜映画社、29分、白黒）

お話：河兎珍（ハ・キョンジン）さん（東京大学大学院情報学環助教）

内容：

記録映画のアーカイブを活用して、映像を用いた多様な研究・教育の可能性を再発見する連続ワークショップ（研究上映会）。第8回目は、企業によって企画された劇映画仕立てのPR映画を取り上げます。

昭和30年代一。「もはや戦後ではない」新しい社会の建設がスタートしました。そんな中、経営者たちによって支持され、企業の重要なコミュニケーション戦略となったのが、アメリカから輸入された「パブリック・リレーションズ」、略して「PR」でした。

なかでも注目されたメディアは、映画でした。電力、鉄鋼、造船、繊維、化学など、主要産業は、当時「産業映画」とも呼ばれたPR映画の製作に力を注ぎ、年間百数十本をこえるPR映画が作られました。

今回のワークショップでは、それらの中から、一風変わった劇映画仕立てのPR映画2本を紹介・上映します。物語としてのPR映画を通じて、企業がいかに関衆（あなた）との関係を築き、企業や産業界のアイデンティティ（わたし）を形成しようとしたかを考えます。

主催：記録映画アーカイブ・プロジェクト（東京大学情報学環丹羽美之研究室）

お問い合わせ：記録映画保存センター（運営窓口）

Tel:03-3222-4249 Email: [center\\_otoiawase@kirokueiga-hozon.jp](mailto:center_otoiawase@kirokueiga-hozon.jp)

\*当日は特別に、河兎珍さんの近著『パブリック・リレーションズの歴史社会学—アメリカと日本における〈企業自我〉の構築』（岩波書店、11,340円）を、著者割（20%OFF）にて販売します。